

平成21年度

## 第1回登別市図書館協議会会議録

開催日時 平成22年3月3日（水）午後4時30分

会 場 登別市立図書館 3階会議室

出席者 《委員》 中西委員長、合田副委員長、松原委員、街道委員、須藤委員

《図書館》 玉田次長 小嶋館長、永森主査、

閉 会 午後6時00分

◇玉田次長

今日はお忙しい中、また雪の中みなさんにお集まりいただきご苦労様です。日頃から図書館に色々な思いを寄せていただき、また、ご提案を頂いていることに心から感謝を申し上げます。

図書館は街の生涯学習の拠点施設と言われるものでありますし、ここが本当の意味で街の文化の質のバロメーターを見る場所になるのではないかということから、お配りをしましたけど、後からまた話題になるかとは思いますが、図書館としてもっと市民の皆さんに親しんでいただけるように、新年度の事業の中では0歳からのブックスタートを含めた取り組みなどを予定しております。

財政難ということもあって、いわゆる大きな町などで見られる最新のマルチメディア的な複合施設の再生というのは、登別の場合は非常に難しいと思っております。ただそのような中でも、多目的トイレの設置とか、事務所を狭めまして、子どもさんがくつろいで本を読めるようなスペースの整備など、少しでも市民の皆さんに親しまれる図書館へということで整備を図っております。

また今年は、30年以上替えられなかった暖房用ボイラーについても何とか更新したいということで、臨時交付金と言う良い制度がありますので、この制度により1千万円の経費をつぎ込んで実施しようと思っております。

ただ今後、施設にお金をかけても質をどのように高めていくかという問題は残ります。是非、皆さんと一緒に考えて登別らしい図書館とは何なのか、それから司書の資格を持つ

た館長をゆくゆくは育てていくべきと、当然考えていますので、内部の質をどう高めていくのか皆さん方のご意見を伺い、職員も努力をしまして、皆さんと一緒に図書館バロメーターを少しづつ上げていくように努力をしていきたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

◇小嶋館長

はい、ありがとうございます。これより協議会に入ります。

◇中西委員長

協議事項であります、「(仮称) 赤ちゃん触れ合い絵本」の取り組みについて説明を宜しくお願いします。

◇小嶋館長

それでは、(仮称) 赤ちゃん触れ合い絵本の取り組みについてですが、これは登別版のブックスタートで、内容につきましては、母子手帳交付時に「マタニティ絵本リーフレット」を配布したり、出生届けを出した時に、市役所の窓口で「赤ちゃん触れ愛い絵本リーフレット」を配布したり、また、4ヶ月検診時に(仮称)「ブックスタートカード(図書利用者カードを簡便に受けられるカード)」を交付して、これを機会に本を借りに図書館を利用してもらえるような取り組みを考えております。また、8ヶ月児健康相談時には、読み聞かせ教室や絵本展示などを子育てグループや健康推進グループと連携しながら取り組むものです。

◇ 中西委員長

これについて、質疑に入りたいと思いますが、何かございますか。

◇ 合田副委員長

市長公約の時に、どんな形でどうするのかとずっと様子を見ていたのですが、ブックスタートという形では私も考えていませんでしたので、知恵を出してできる事をやっていくという意味ではとても良いことで、嬉しく思います。やればできるじゃないのと実は思っていますので頑張ってやっていただければと思います。

◇ 中西委員長

ほか、ご意見ありませんか。

◇ 松原委員

アンケートを実施するなど政策とリンクするように取り組む必要があると思います。

◇ 合田副委員長

今回の場合は母親を対象に様々な部署とリンクさせ、選択をうまく運べばテーマは良いので図書館でやったら図書館だけで終わらせるのではなく、政策的に横の連携をきちっとうまくやってほしいと思います。

◇ 中西委員長

あとございませんか。ないようですので次に入ります。

二つ目は、図書利用者カードの広域連携についてです。

◇ 小嶋館長

図書利用者カードの広域連携についてですが、今、図書館で利用していただいている利用者カードを室蘭市や伊達市の図書館でもこの一枚のカードで利用できないかという話があり、西胆振の中でも協議をしております。

ただ、室蘭市と伊達市は同じメーカーのシステムで稼動しておりますので、ここでの連携は取れますが、登別市は日立のシステムを使っており、更新したばかりのため、今即座にこれを一本化するということは簡単ではない状況です。また、一本化したときの個人情報の取り扱い方、利用者の借りた本の返却方法など、細部にかかる話し合いが必要との認識で一致しております。

◇ 街道委員

広域連携は実施できると良いと思います。図書館の利用方法を知らない人が多いのでPRする必要があると思います。

◇ 須藤委員

使い勝手の問題もありますが、例えば、登別東町の人が中央町の図書館で借りた本を婦人センターで返せる、というような図書館の便利な利用方法を知らない、という実態もあり、教えてあげると「えっ、知らなかった」と言われることが良くあります。図書館の使い方をもっと知らせることの方が効果があるような気がします。

◇ 松原委員

図書館というのは、私も委員をしていながらあまり使うことがなくて、頻繁に利用することはありません。一般の市民方々にどれだけ身近に利用していただけるか、ということから考えると、私と同じように、利用する人と言うのは、そんなに多くないのかな、と言う気がします。ただ、民間は営業として考えますから、例えば、今ビデオやDVDなどの宅配事業がありますが、そういった便利さはやはり求められていくのだろうと思います。

そういう意味で、やはり、3市共通のカードの利用についても求められていくのかなという気がします。

◇玉田次長

図書館の共通カードの関係ですが、西胆振広域圏というところで話し合いが始められました。図書館が市民のみなさんにとって使い勝手の良いものに代わっていくことが、今後の使命であると思っています。

一方で、現在、どれだけ多くの人が図書館を利用するかと言うと、図書館には、アンビバレントな感情があって、本当の本好きの人と言うのは、欲しい本は借りない、自分のものにして読む、という傾向があって、図書館は好きだけれども利用に関しては比重を置かない人は意外に多い、という実態もあると思います。そうした中では、現在、室蘭の方が登別の図書館を年間どれくらいの数で利用するものなのか、あるいはその逆はどれくらいなのか、その利用数とシステムを変えて統一化し、なおかつ郵送料を払ってそれぞれの市に本を返却するという費用がどれくらいになるのかも、やはり考えていかなければならないかも知れません。宅配事業は、不特定多数という利用者を持つことから、全国展開でコストを抑えることが出来るため、民間は積極的に大きなお金を支出して実施しますが、これと同列に考えることは、難しいかもしれません。西胆振の中でどうやって経費負担もおさえて工夫していけるのか、そういった点も十分考えて話し合いを進めていくべきではないかと考えます。

◇合田副委員長

図書館がどうあるべきか、ということは私は何度も言っていますが、やはり専門性を持った司書館長を置き、その中で図書が選択をされ、市民に有益な図書館となっていくものだと考えています。道立図書館で一部導入をされた指定管理者制度がありますが、これは私は大幅な改悪だと思っていますが、事務局はこの事実を知っていますか？

◇小嶋館長

道立図書館で一部導入されるということは承知しています。当市においては指定管理者制度は馴染まないということで、導入の考えは持っていません。

◇合田副委員長

今回新たな事業に取り組むなどようやく「やればできる」という姿勢に図書館がなってきたけれども、うちの図書館はともかくなっていない。司書館長を置くという姿勢や方針がないから、職員のあがり（定年前のご苦労さん）のポストで、ただ貸し出しだけの変化

のないままずっときた。このままでいったら、小嶋館長は今年で終わりで、永森主査もあと1年で、誰もいなくなってしまう。今、何人司書の資格を持った職員がいるのですか？

◇小嶋館長

正職員で1名、嘱託職員は1名、臨時職員3名おります。

◇合田副委員長

それにしてもひどい図書館ですよ。口をすっぱくして司書館長を置くようにと私は何度も言ってきました。

◇街道委員

私は、合田さんとは意見が違い、館長は資格所持が望ましいとは思いますが、状況により持たない人でもかまわないと考える。

機会があつて、留萌の図書館を見てきましたが、これはもう惨憺たるものでした。

不景気という中で、それぞれの市はやはり大変なところにおかれているな、と思いました。こういう状況では、図書館に求められるのは、図書の専門性と言うばかりではなく、広い見識ある民間人の館長でも良いのかもしれませんが。色々な施設がありますが、博物館類似施設など、学芸員の資格を持たずに立派に経営している近隣事例もよく知られている。

◇松原委員

合田さんたちの運動は理解しているつもりです。しかし、こういった運動は、やはり少ない中で理解を一步一步広げていくしかないのではないですか。

市民は、必ずしも理想の図書館を今すぐ実現すべき、とは考えていないかもしれない。努力を積み重ねていかれるべきでしょう。

◇玉田次長

司書館長の設置の問題については、合田さんから常常言われています。市としては、ただちにこれを実現する、ということは決定しておりません。

たとえば、現在、図書館をはじめ市役所全体が慢性的な人員不足で、なかなか市民全てのニーズに応えられる状況になっておりません。こうした状況で、企画力もあり、経営能力もあり、なおかつ専門資格を持つ、という職員がいたら、逆にこういう人は図書館に配置されず、市の中枢に置かれるかもしれません。

私達は、日々色々怒られ、励ましを受けながら「愛されるべき図書館」になるべく、一步一步努力していくべきと考えておりますので、22年度はまず、「ほんとの出会い、ふれ愛、語り合い」などのイベントをこなし、図書館を宣伝していきたいと考えております。

こうした努力の中で、市長部局とも組織人員配置を協議しており、専門職の配置の必要性についても強く要望していきます。

◇中西委員長

それでは、そのほかには何かございますか。

◇玉田次長

先ほどのイベントの関連で、ブックスタートについての名称を「(仮称) 赤ちゃん触れ合い絵本」としてありますが、この名称で良いでしょうか。

異議なしの声

◇中西委員長

それでは「赤ちゃん触れ合い絵本」ということで協議会は了承いたします。

そのほかには、何かありますか。

◇合田副委員長

この協議会は2回の開催となっているのに、今年もこれでおそらく最後で結局、最初で最後の開催になっています。今後は、必ず年に2回、3回開催をしてもらいたいと思います。

◇玉田次長

了解しました。来年度は、2回、3回と開催を予定したいと思います。また、先ほど須藤委員や街道委員からも言われました、図書館の便利な利用方法、これも、イベント時点にチラシを配るなどして、図書館の宣伝に努めたいと思います。

◇合田副委員長

「ほんとの出会い、ふれ愛、語り合い」の時の講演は誰か予定しているのですか。

◇小嶋館長

苫小牧市などとの共催で、全国的にも有名な絵本作家の宮西達也さんと呼ばれればと考えています。

◇合田副委員長

良いと思います。